

グリーンツーリズム実施地域における集落景観に対する住民の選好性評価と空間管理の関係に関する研究

○岡野こゆう*・中島正裕**・廣瀬裕一***

*東京農工大学大学院農学府 **東京農工大学大学院農学研究院 ***農研機構 農村工学研究部門

I はじめに

◆背景 グリーンツーリズム(GT)の観光活動には**美しい集落景観が中核的価値**(中島, 2019)

住民による**空間管理(集落活動・家屋の管理)**が価値創出

しかし

・住民の集落活動への参加意欲の低下 ・空き家の増加



美しい集落景観

◎空間管理の持続性を問うアンケートを実施してみると否定的な回答が多い

なぜなら 労働・心理的負担 による 対象物への**価値認識(選好性評価)**が含まれない つまり 住民の**深層心理**に従ったものなのか?

◆問題意識 労働・心理的負担からの評価だけでなく... **深層心理**に着目⇒住民の対象物への**選好性評価**を考慮する必要がある

先行研究 揚水水車, 河川を対象とした研究においては, **管理活動への態度**は, **管理対象**に対する**選好性評価の影響**を受ける (廣瀬ら, 2013), (三阪ら, 2006)

このアプローチを**集落景観**に援用

深層心理が分かる「**評価グリッド法**」を活用

◆目的 評価グリッド法を用いて集落景観に対する住民の選好性評価の構造を解明する

《手順1》 個人ごとの集落景観に対する選好性評価の構造の抽出

《手順2》 集落景観に対する選好性評価の構造の抽出

《手順3》 集落景観に対する選好性評価の決定要因の解明

II 調査対象地

◆群馬県みなかみ町「たくみの里」須川集落 GT先駆的地域「たくみの里」の玄関的存在 旧三国街道の元宿場町の面影が残る**美しい集落景観**



花植えで整備されている花壇



道普請で整備されている水路



管理されている白壁の家屋

来訪者から高い満足度 (中島,2006)

須川集落の集落景観は 住民による花植え, 道普請など集落活動, 家屋の管理によって維持されてきた

しかし

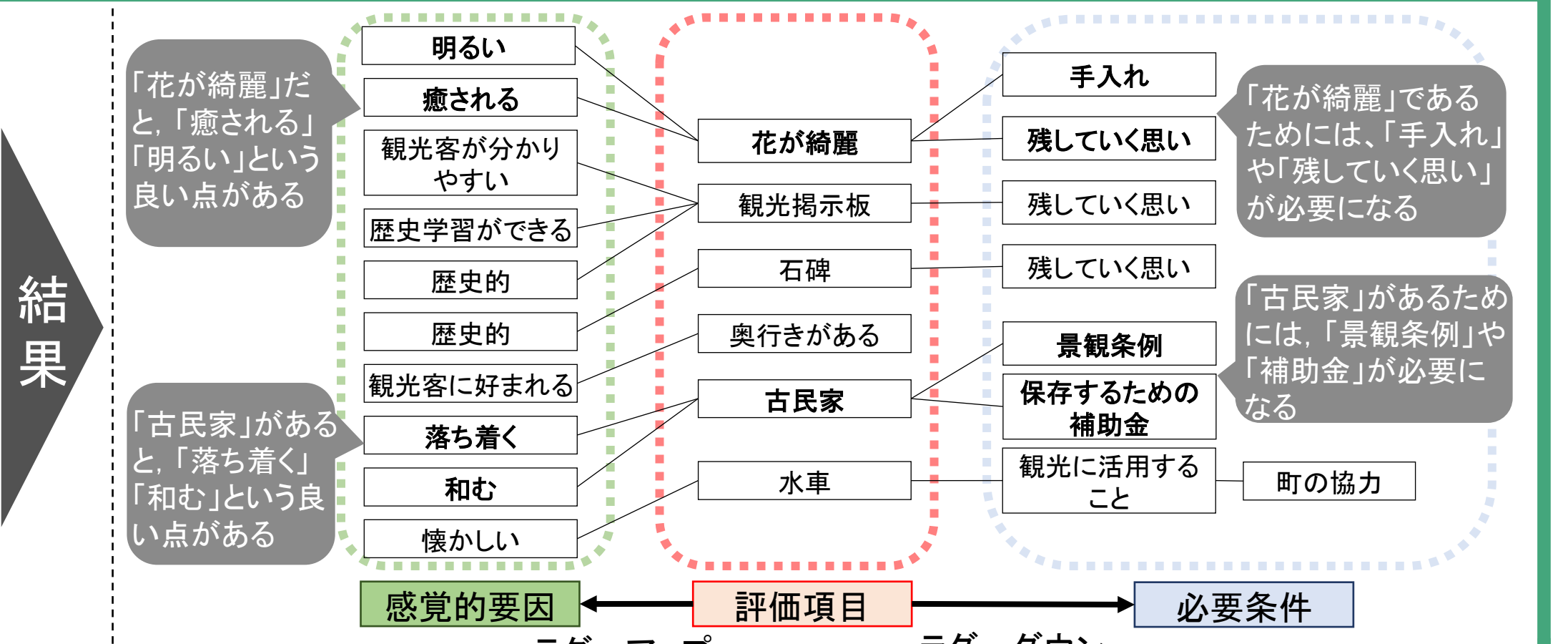
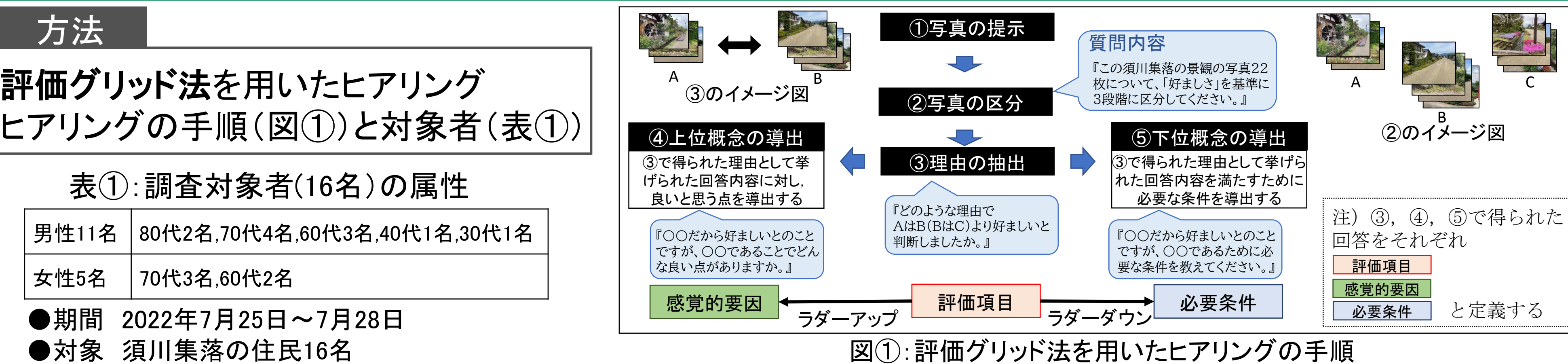
花植えに関するアンケート(区によって2021年1月実施) ⇒「**今後実施しなくてもよい**」という回答が約半数

空き家の増加の懸念

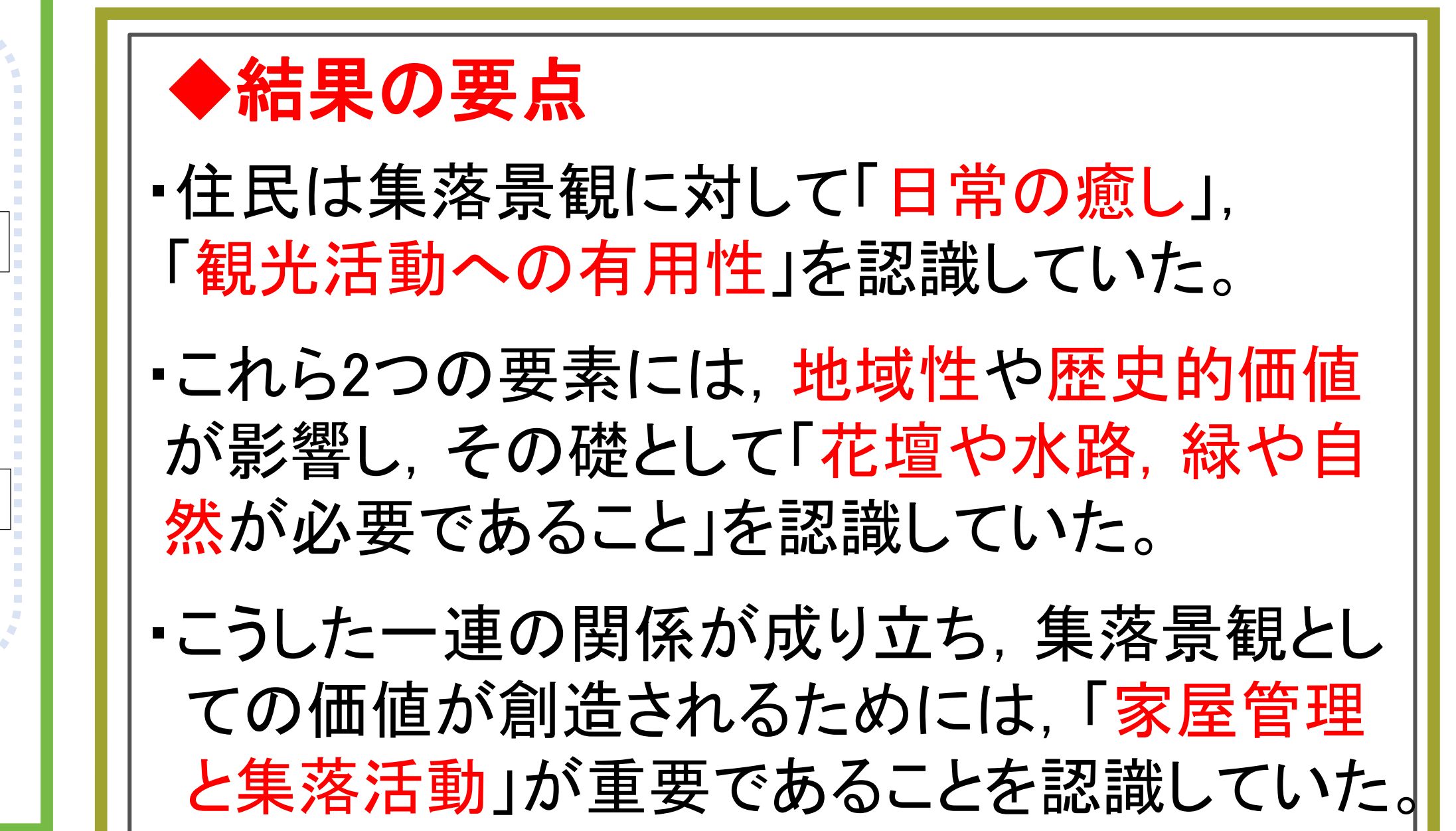
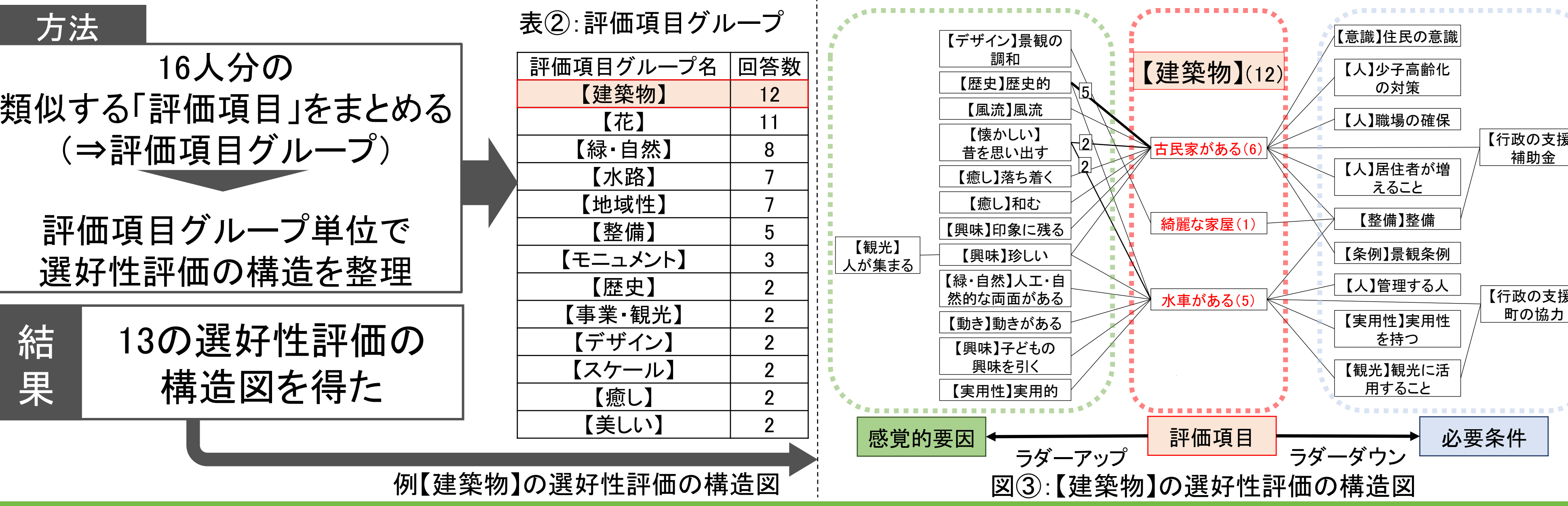
本心か?

III 結果

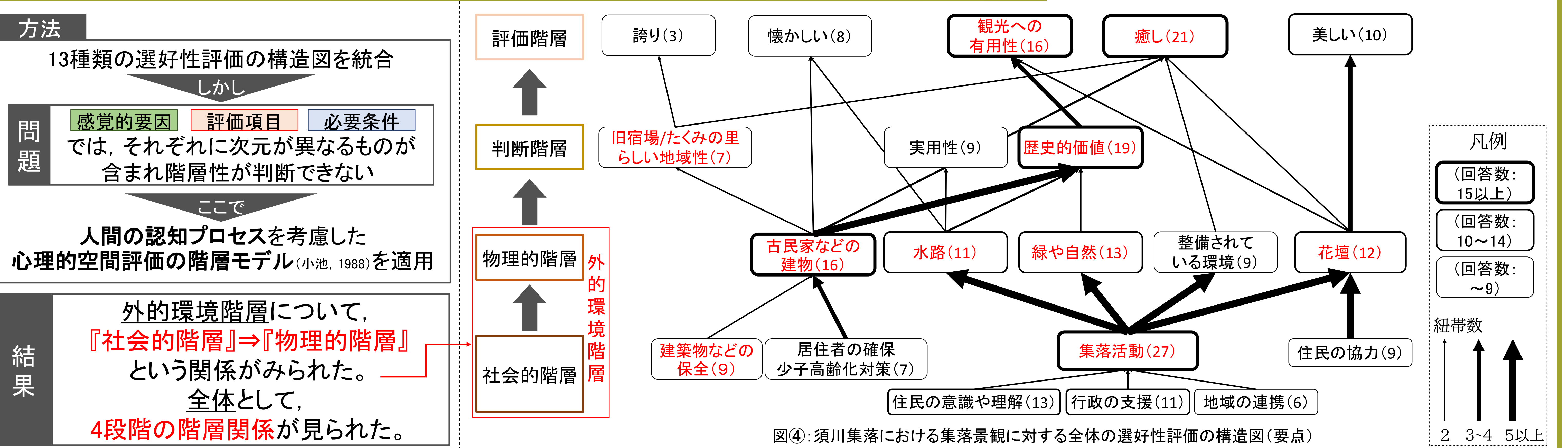
《手順1》個人ごとの集落景観に対する選好性評価の構造の抽出



《手順2》集落景観に対する選好性評価の構造の抽出



《手順3》集落景観に対する選好性評価の決定要因の解明



IV まとめと今後の展望

◆まとめ 評価グリッド法を用い, GTの中核的価値である集落景観に対する住民の選好性評価の構造を解明した。集落によるアンケートの結果からは, 空間管理(花植え活動など)の持続性が危ぶまれる傾向にあった。しかし, 本研究で対象とした16名の深層心理をみると, **日常の住環境のみならずGT活動においても集落活動の継続や家屋管理に対する価値認識は高いことが明らかとなった。**

◆今後の展望 研究課題: 今回の対象は16名であったため, 全戸に向けたアンケート調査により検証する 実践的課題: GT実施を一体的に捉えた集落景観の保全への意思決定支援

参考文献 小池俊雄ら(1988): 都市河川空間の評価構造に関する研究, 土木計画学研究論文集, 6巻, p105-112 中島正裕(2019): 研究者は都市農村交流の持続性に如何にして貢献するか?, 農村計画学会誌, 38巻1号, p27-32 中島正裕ら(2006): 来訪者の意識・行動からみた農村地域の観光資源の特性—都市農村交流による農村地域活性化の計画づくりに関する研究—その1—, 農村生活研究, 第50巻第1号, p31-40 廣瀬裕一ら(2013): 非農業者住民の揚水水車に対する選好性評価の決定要因が保存活動への参加動機に及ぼす影響, 農村計画学会誌, 32巻論文特集号, p287-292 三阪和弘ら(2006): 河川に対する評価構造と心理プロセスの統合モデルの検討, 水工学論文, 50巻, p1495-1500